



AA日本ニュースレター

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377
 〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F FAX 03-3590-5419

〒100-91
 東京都中央郵便局
 私書箱 916

No.68

第3回全国評議会開催！

第3回全国評議会は、全国各地域から選出された全評議員を含む評議会メンバーが一堂に会し、2月6日から8日まで東京で開催され、数多くの新しい提案が採択されました。詳細につきましては次回のニュースレターでお知らせしますが、本号では、新常任理事の横顔や、全体会議で分かち合われた各地域の問題点などをお伝えしたいと思います。なお、今回の評議会事務局の手際よさには目を見張るものがあり、各分科会に分かれ、けんけんごうごう、たまには脱線しながらも、話し合われ、煮詰められていった討議内容が、事務局の書記団によってたちまちのうちにワープロで文書化され、わかりやすい報告書となって、その数時間後に開かれた全体会議には全評議会メンバーに届けられました。おかげで全体会議で審議すべき案件がとても理解し易く、これまでよりもはるかに能率的に議事が運ばれました。

では、このたびの評議会でB類新常任理事およびWSM評議員として承認を受けた新しい仲間たちの抱負を紹介します。まずは新全体サービス常任理事、財務担当の小泉さんです。

全体サービス常任理事として一つ一つ前向きに行動していきたい

まだ苦しんでいるアルコールクに、自分たちの経験を話し、AAという自助グループがあることを伝えることで、酒をやめたいという思いがあれば、誰にでも回復できる道があることをより多く伝えたい。この思いは、AAメンバーであれば誰もが抱いているものだろうと思います。

また、その存在を知り、新たにAAに顔を出された人がどうして行ったらよいのかまだよく分からない状況で、すぐに顔を見せなくなってしまったときに「また顔を出しに来て欲しいなあ」という思いを抱いた経験もあるのではないかと思います。

そうしたとき、私たちAAメンバーができる第一のことは、ミーティングやメッセージの場で自分自身の経験をありのままに話すこと、隣の席を勧めたり、声をかけるなどいろいろな形でその人を温かく迎えることだと思うのですが、AAのことをもっと早く、より深く知ってもらうためには、本を読んでもらうことも必要と思うのです。AAの本がもう少し安くなり、もっと多くの人に読むチャンスを多く持ってもらえるようにできないかという思いが私自身の心の中にあるのです。

AAのサービス構成に与えられている役割は、そうしたメンバー一人や一つのグループ、一つの地域では解決できない事柄を、何とか実現できるよう積

極的に考え、努力してゆくことなのではないかと思っています。

今回、AAの全体サービスの財務担当常任理事としての役割を与えられ、自分が抱いていた思いを、あるいは短慮ともいえるような、思い切った改善提案という形で出したことに対して、本当に数多くの人に共感していただきました。そしてその趣旨をさらによい方向へ推進してゆく力となってくれる人が、各地域のグループを代表して来られている人の中に、こんなにも多く存在するのだと、評議会の中で実感させてもらえたことは、実にうれしいことでした。

自分自身が何年か前にAAに出会い、酒をやめ続けさせてもらって来たことと同じに何か不思議な力、それこそハイパーパワーが与えてくれたものではないかという力を感じます。

AAの活動が、今後日本でも世界全体でもさらに広がってゆくことは確信できますが、そのためにはAAメンバーの一人一人がまだ若んでいる仲間メッセージを運ぶという直接の行動とならなくて、それを支えるためのグループ、地区、地域、日本全体、さらには国際間のサービス活動を、ほんとうにできることから一つずつきちんと進めてゆくことも重要なのだと感じています。

ここ数年、J S O（全体サービス）の運営状況は黒字で推移していますが、これは職員数をひとり減らしたことで生まれた（職員への負担を増やすことで得た）見た目の余裕でしかなく、本の売上も献金も減って来ており、このままゆくと本当にどうしようもなくなってしまうのではないかとというのが実際の姿なのです。

そんなときに本を安くしたら、J S Oだけでなくセントラル・オフィスも含め、日本のAAは大丈夫なのだろうかという心配がないとはいえません。しかし、AAの本は読んでもらわなくては本来の価値が出て来ないと思うのです。メッセージを伝える手助けとして、また、自分自身の回復への道しるべとして、AAプログラムをよりよく使い、日々の行動に移してゆくためにもできるだけ多くの人に本を読んでもらうことを第一に考えるべきだろうと思うのです。

仲間が多くなればなるほど、その活動の輪はさらに広がってゆくでしょうし、そうなればサービス活動の大切さを理解してくれる人も増えて、献金する

人もその額も自然に増えてゆくのではないかと思います。

不安に縛られて酒を断ち切れなかったあのころの自分と今の自分、初めてAAに出会ったころ、自分が飲まないでいることにしか考えが届かなかったときと、こうして原稿を書かせてもらっている現在の状況を比べてみると、何はともあれ無我夢中でミーティングに出ることを続け、その結果として一步一步前向きに歩かせてもらえて来たことを本当によかったなあとしみじみ感じます。

これから4年間、常任理事の一人として、メンバー一人一人、各グループ、各地域での活動をよりやり易くする縁の下の力持ち的な仕事をひとつでも多く実現してゆけるよう努力したいと思います。放っておくと調子に乗り過ぎ、すぐに早とちりしたり、抜けたこともやりかねない人間ですが、数多くの人からの意見をいろいろと聞かせてもらい、できるだけゆっくりとやってゆくつもりです。

よろしくお願いします。

小泉

次の新常任理事は今井さんです。常任理事会には“今井さん”がふたりになりましたが、女性のほうの今井さんです。

西日本圏選出常任理事、病院・施設担当今井さんへのインタビューです。

Q. まず、これまでのサービス分野の経歴などをお聞かせください。

今井：サービスの役割は島根県でグループ代議員を5年しました。輪番ということ考えると長すぎるかもしれませんが、地方の小人数のグループでは、定期的に次の人に役割を手渡すのは現実的にはむずかしいのです。中四国地域全体のサービス構成がまだ設立していなかった時代でしたので、そこから中四国地域評議員に選出され、2年間の任務を終えました。

Q. 今までのサービス経験のなかでAAの現状に欠けていると身に染みて感じたようなこと、あるいは、すぐにも改善しなければならぬと感じたことはありますか？

今井：グループ、地区、地域が自律し、活動しているのはいいことなのですが、他地域のことについてあまり関心を持っていないように思われます。個々のメンバーどうしの分かち合いはしっかり行われていても、地区、地域レベルになるとあまりうまくできていないように思えます。いろいろな問題点を、メンバーの方からだけでなく、地区、地域の方からもメンバーに投げかけるようにし、一緒に考えていく姿勢が必要と思われます。そのためにも、他地区、



他地域の貴重な経験が必要になり、横との繋がりが大切になってくると思います。

Q. 常任理事として、その課題を具体化するための構想、あるいは抱負などをお聞かせください。

今井：地方の場合とくにAAが正しく理解されていない、またはAAの存在を知らないというところがたくさんあります。そういうところへ、地区、地域のメンバーと協力しながらAAを正しく伝えていきたいと思っています。そのためには、地区、地域の現状をよくつかんで、問題点を知っておく必要があると思います。サービスに関心のあるメンバーに呼びかけ、情報収集をし、どう対応していったらよいのかを、いっしょに考えていきたいと思っています。あせらずに、着実にやっていこうと思っています。

Q. 今回は常任理事として再度評議会に出席されたわけですが、中四国地域の評議員として出席したときとはまた違った印象を持たれたと思います。その

あたりはいかがでしょうか。

今井：今回受けた強い印象は、女性の評議員が2名もいたことです。私のときは、私1名のうえに、女性の評議員ははじめてということもあり、とても緊張し、雰囲気呑み込まれてしまい、何が何だかわからずに終わってしまいました。

私が評議員として出席したのは、GSMと言われていたときなのですが、そのころの審議は、ただ提案に対して反対のための反対だけのような気がして

ならなかったのですが、今回は、審議する議題が明確になっていて、審議の内容も、提案のみでなく実行に移していこうとする前向きの姿勢のもとに行われていて、積極的な姿勢で、全体的に理解しやすくなったように思います。今回もあのとときと同じ3日間の開催だったのに、私自身、疲れ方がぜんぜん違いました。また、お手伝いをしてくださったボランティアのメンバーの方々には、たいへんお世話になりました。

次はWSM評議員として承認された現常任理事会議長の山宮さんです。前回のWSMの際、評議員資格について見直しが行われ、英語やスペイン語がしゃべれないがために有能な評議員候補者が除外されることがないようにという配慮のもと、英語の実用能力はなくても、全国レベルでの全体サービスの経験があり、AAに対して意欲的なメンバーが選出された場合には、事務局に通訳の手配を依頼できることになり、その条件のもとで、山宮さんが推薦を受け、承認されました。

山宮：WSM評議員をやってみたいという意欲はあるのですが、現実に英語が飛び交うWSMの現場で、英語を話さない自分がどうなるのか、どういふ対応をすればよいのかとなると、まったく想像が付きません。また、WSMでどういうことがおこなわれているのかという具体的なイメージも想像の範囲を超えていますし、そんな中で自分が適任なのかどうかも、わかりません。

これまでは、英語が話せることがWSM評議員候補者の絶対条件で、英語のことを最優先させて候補者をしぼらなければなりません。幸運なことに、WSM評議員の前任者たちはその条件を満たしてきましたが、今は、全体サービスの評議員等の経験者で、英語ができる人というものは出尽くしてしまったという感じです。もちろん、まだほかにも何人かいらっしゃるのですが、WSMに出席するだけでも10日間も職場を休まなければならない、そんな長期間、簡単に休暇が取れる恵まれた職場にいる評議員は、当然ながらめったにいないわけです。

今回の常任理事会での候補者についての話し合いの中では、英語が話せて、サービス活動にも熱心で、WSMの役割にも積極的な姿勢があるなら、全体サービスの経験がなくてもいいのではないかという意見も出されたのですが、やはり我が国で全体サービス構成が整った現在、日本の常任理事会としてWSM評議員として推薦する以上、全体サービスに関わったということをも最優先すべきであり、通訳がつくということなら、英語よりもそちらを優先すべきということで、人選が進み、私でよければと、推薦を受けさせていただきました。どこまで役に立つことができるのか、まったく分かりません。ただ、英語が話せない私が今回引き受け、英語が話せないWSM評議員として実績がつき、これからもたとえ英語が苦手でもWSM評議員ができるとなれば、現在の評議員も含め、もっと多くの人達に道が開け、候補者の裾野は広がっていくことと思います。できるだけベストを尽くしたいと思います。

全体会議一各地域の問題を分かち合って

評議会2日目の午後、各地域で現在抱える問題点について、“AAができること、しないこと”というテーマのもとに幅広い分かち合いが行われました。その内容を一部紹介します。

まず、提起されたのは、地域集会等、本来は地域全体のグループが集まるべき会議に、地域が広域のために、交通費や時間的な問題で現実には集まりにくく、地域のサービスが活性化しないという問題点でした。

ある地域ではグループ代議員が集会に集まるための交通費をカバーする分担金制度を設けており、そ

れで交通費をまかなっているため、遠方のグループも交通費のハンデはなしに参加しやすくなっているということでした。ただし、生まれたばかりの小人数のグループや、まだ力のないグループには分担金の免除というかたちで地域として応援しているということでした。このような分担金制度を設けている地域は一地域だけで、あとは、地域内の県を持ちまわりで開催することで公平にしている地域、どこの地区からもアクセスしやすい地域の中心地で開催することで各グループが出席しやすくし、特に交通費の援助はしていない地域、交通費の援助はシステム

としてあるものの、支払いの請求を受けたことがないという地域と、さまざまな地域の知恵と経験が分かち合われました。

新しいグループや、遠隔地にある孤立したグループに、地域としてどのような援助ができるかという問題についての評議員たちの経験は、できるだけそのグループのミーティングや、地区の委員会に参加するようにする：地域で援助してその地区でオープン・スピーカーズ・ミーティングを開催し、地区の関係者にAAを知ってもらうようにする：地区でそのグループのミーティングの会場費を負担する：新グループ向けの援助資料一式をサービスする：地域作成のミーティング案内に掲載し、地域全体に広報する：グループ対グループのサービススポンサーシップをとる：などが分かち合われました。

バースディ・ミーティングのありかたについても話し合われました。色紙はAAのプログラムとは異なるのではないかと、地域全体で色紙やプレゼントの習慣や、ましてやケーキの習慣はまったくないという地域：バースディ者には感謝のためのオフィスへのバースディ献金の振り込み用紙が送られこそすれ、バースディ者にプレゼントをする習慣はないという地域：バースディをやっているグループもやらないグループも両方あり、グループが自律的におこなっているという地域：献金の目的が、まだ苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶことであるなら、バースディのための色紙やケーキに献金が使われることはどうなのかということが、地域全体の問題として指摘され、改善されていったという地域など、さまざまな経験が分かち合われましたが、その一方で、バースディ・ミーティングは盛んに行われ、プレゼントなどがエスカレートしているという



地域もありました。

各メンバーのミーティング出席記録をとるのは“AAがしないこと”とはいえ、一般的に病院や施設からはメンバーの出席証明が、福祉事務所からは交通費の証明が求められています。各地のグループではメンバーが出席カードに捺印をすることで協力していますが、事実と違う申告や、交通費の不正受給の問題にAAグループとしてどう対応したらよいかについて経験が分かち合われました。グループの側で日付によって捺印者を決めることで、不正防止をはかるといった工夫をしているところもありますが、不正そのものは、本人が自分の回復の可能性を自ら危うくする行為であり、一方、回復に対して熱意がある人には、援助者も周囲のメンバーも自然と応援してくれるものだという意見が出されました。しかし、一部の人の不正行為により、将来移送費の援助が必要な人達に影響が及ぶ可能性もあります。

ある国では出席証明をする／しないはグループが決めることであり、証明が必要な人は、出席カードの捺印、署名をするという方針のグループに出席してもらっているという外国の経験も分かち合われました。

その他、矯正施設へのメッセージの経験、“伝統違反”という一刀両断のことばにまつわる経験、治療用の薬に対するAAメンバーの言動や誤解について、アルコール以外の問題解決のためにAAミーティングに出席してくる場合の問題点なども分かち合わせ、予定時間の4時間があつと言う間に過ぎた有意義な話し合いの時間でした。

お知らせ— AAのメッセージをより多くの人達に！

1. 特に新しい仲間役に役立つ出版物の一部に3月から価格の変更があり、入手しやすくなります。
「どうやって飲まないでいるか」 700円
「スポンサーシップ」Q&A 300円
2. ピックブック朗読テープは特別価格の2,000円になりました。
3. AA出版物カタログは無料で配布します。

